

DLCコーティング

受託加工を本格化

装置販売と2本柱に

ナノテック

当面、本社内の表面改質センターとテクニカルセンター(千葉県柏市)に自社製品のDLC装置を合計8台設置して受託加工に充てる。最高で厚さ10ミクロン、ビッカース硬度1300HvのDLC薄膜「ナノカーボン」を成膜する。

ナノテックは事業化に向けて、大量の材料を一度に成膜できる大型DLC装置を開発し、硬質クロムメッキ並みの低コストで成膜を可能にした。



中森 社長

【千葉】ナノテック(埼玉県南埼玉郡白岡町、中森秀樹社長、04800・933・2911)は、ダイヤモンドライクカーボン(DLC)コーティングの受託加工事業を本格化する。処理価格は発注単位によって異なるが、従来4〜5倍の差があった硬質クロムメッキと同等の価格に設定する。機械部品メーカーを対象に営業活動を展開、初年度4億円の売り上げを見込む。2〜3年後に主力のDLC装置販売と同規模の「年間売り上げ10億円まで引き上げる」(中森社長)考えた。

また、フィルムなど柔軟性のあるワークにコーティングする技術も確立。硬度を下げてゴムやプラスチックに厚さ数ミ

クロンのDLC膜を形成できる。また、エッチング処理も引き受け、成膜から離すまで総合的に表面処理加工を手掛ける。

これまで少量のサンプルコーティングを行っていたが、国内の自動車関連部品メーカーから10万個単位でエンジン周辺部

品の加工依頼があるなど「十分な需要と採算性がある」(同)と判断した。事業化に向け、昨年4月にテクニカルセンターで始めたテスト結果も良好なことから、本格展開に踏み切る。年内には大阪にも拠点を構え、同じ内容で受託加工サービスをを行う計画だ。